



# 環境保全米通信

お米  
プレゼント!  
応募方法は第4面

事務局：宮城県農業協同組合 中央会 仙台市青葉区上杉 1-2-16 TEL:022-264-8247 FAX:022-264-8239

編集協力：NPO 法人 環境保全米ネットワーク

## JAいわでやま発案 ライス・パフ・チョコレート(RICE PUFF CHOCOLATE) 販売開始!!

JAいわでやまでは、岩出山産の環境保全米のひとめぼれを原料にした、チョコレート菓子「ライスパフチョコレート」を、JA直営店や宮城県内のAコープで販売を開始しました。このお菓子は、環境保全米のひとめぼれをポン菓子にして、世界に知られている株式会社ロイズコンフェクト（本社 札幌市）のチョコレートでコーティングしたお菓子です。サクサクとした食感でまろやかなチョコレートが溶け合って、とても食べやすく、飽きのこないチョコレートです。

JAいわでやまの鈴木千世秀（すずきちよし）組合長は、「米の消費拡大、宮城のひとめぼれの宣伝を進めるために、食用米ではなく、お菓子という形で製品を開発して、関心を高めたかった。諸般の事情で表示できなかったが、原料米には岩出山産の宮城ひとめぼれの環境保全米を使用している。」と話されていました。この構想は数年前から準備し、平成28年8月に真山地区にポン菓子工場を作り、ロイズとの調整を図りながら試作を繰り返して、平成29年11月から県内JAで独占販売することになりました。

世界的に有名なロイズの協力が得られたのは、岩出山の歴史遺産によるものでした。岩出山は伊達政宗の城下町として発達しました。明治時代に入って岩出山伊達氏の伊達邦直が、家臣とともに北海道開拓のため津軽海峡を渡ります。開拓地は札幌の近くの当別地区で、苦難を極めながら1872年（明治5年）から開拓が始まりました。これが縁で当別町と岩出山町が姉妹都市を結び、当別町に工場があるロイズとのつながりが生まれたのです。国道47号線沿いにある道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」では、ロイズの製品が販売されています。

■問い合わせ：JAいわでやま Tel.0229-72-0005



[12個入り] **648円** (税込み)

## 持続可能な水田農業を支える「大崎耕土」の 伝統的水管理システムが世界農業遺産に認定

「大崎耕土」の世界農業遺産認定に向けた取り組みについては、「環境保全米通信」夏号で紹介しましたが、2017年12月12日に国連食糧農業機関（FAO）から世界農業遺産に認定されました。これは、400年以上に亘って、巧みに水をコントロールすることで、新田開発と水田農業を可能にするとともに、その後も絶え間なく土地改良や環境保全型農業などを推進してきた大崎地域の人々の取り組みが評価されて認定されたものです。宮城県内の多くの地域では、奥羽山脈から太平洋へ河川が流れる地形条件による洪水・氾濫に適



写真提供：大崎市

応しながら水田開発を進める水利システムが発達してきました。また、頻発する「やませ」に対しても水温管理を基本とする農法や米の品種改良が続けられ、集落内の契約講や信仰を基礎にした情報網によって広く共有されてきました。こうした農業システムへの評価は、大崎だけでなく宮城県内の各地域にも当てはまるものです。今回の認定では、こうした取り組みだけが評価されたのではなく、この取り組みを持続可能にしていく方策も評価されています。特に、地域の人々のつながりを基に、都市と農村の交流、農業・環境学習の推進、環境保全型農業を強調したことが高く評価されました。

**アンケート大募集!**  
ご意見をお聞かせください。



アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、  
**10名様に環境保全米2kgプレゼント!!**



# 『環境保全米』生産者訪問

## JAいわでやま 一栗八幡神社 宮司 栗生時雄さん



今回の環境保全米生産者訪問は、JAいわでやま管内の栗生時雄さんを訪問しました。この日は、大崎地方が大雪に見舞われました。栗生時雄さんは、写真にありますように、岩出山上野目にある一栗八幡神社の宮司さんを務めておられます。代々この神社の宮司を務める家系で、塩釜神社に勤めた経験もお持ちです。

経営は、水田面積が受託面積も含めて9ha、繁殖牛の母牛5頭、牧草地1.5ha、漬物用ナスの栽培10aです。品種と栽培方法としては、環境保全米Cタイプでつや姫を栽培し、慣行栽培でササニシキ

等を栽培しています。今年の作況については、8月の日照不足、9月の大雨で、反収は10aあたり8俵程度でしたが、米粒が小さかったと言います。環境保全米の栽培自体は、畜産農家でもあるので、そんなに難しくはないとのことでした。しかし、この地域は、県の指定で採種圃場になっている田んぼが多いため、病害虫に敏感になっていて、農薬の削減に消極的で、環境保全米に参加しない生産者もいると聞きます。しかし、栗生さんは、しっかり種籾の管理をして土づくりをすれば、環境に優しい米づくりは難しくないといいます。自給の牧草や飼料で給餌した和牛の糞から作る堆肥を10aあたり1t入れて、土づくりをします。堆肥が入っている土は粘りがあって、しっとりとしているが、堆肥が入っていない化学肥料に依存する土は粘り気がなくもろい感じがするとのことでした。最後に地域の米づくりについて聞いてみました。「自分の水田面積は、4.5haだが、実際に経営している面積はその倍になっている。地域で水田稲作をやっていた人が、高齢化や農業機械の更新期をきっかけに、米づくりをやめていく事例が増えてきた。まだ地域には、こうした田んぼを引き受ける生産者がいるが、これから先が心配になっている。地域の農業を支える後継者を育てていくことが大切」とのことです。



樹齢 720 年の糸ヒバ



## 環境保全米宣言



みやぎの「環境保全米」は、

- 化学肥料や化学農薬を大幅に減らして栽培しています。
- 土や水を元気にして、水田の生きものを豊かにしています。
- 二酸化炭素を減らし、地球温暖化の防止に努めています。
- 消費者にも農家にも優しい「安全・安心」なお米です。

私たちは、みやぎのお米すべてを「環境保全米」にしていくことを目指します。

以上、宣言いたします。

## 「ウォッチン田んぼ」で作るもの 東北放送報道制作局テレビ制作部

月曜から金曜の朝は「ウォッチン!みやぎ」、そして土曜の朝は「サタデーウォッチン!」。TBCテレビの地域密着型情報番組として、好評をいただいている両番組で、毎年恒例となっている取り組みが、コメ作り企画「ウォッチン田んぼ」です。もともと東北放送八木山本社の構内にあった小さな池を「ウォッチン田んぼ」にリニューアル(!)。わずかばかりのスペースながら、JAみやぎ仙南角田地区青年部の全面協力のもと、毎年テーマを持ってコメ作りに取り組んできました。11年目を迎えた今年は、新銘柄米『だて正夢』の育成に挑戦しました。来年度に本格デビューを控える期待の新銘柄米だけに、失敗は許されないという緊張感が漂う中スタートした本企画。角田地区青年部の皆さんによる懇切丁寧なサポートを受けて、5月20日、番組で公募し抽選で決定した5人の小学生、『田んぼキッズ』の手で田植えが行われ、その模様を「サタデーウォッチン!」内で生中継しました。その後も、こまめな水の管理はもちろん、稲の倒伏防止のため田んぼ内にロープをわたしたり、鳥害対策に網をかけたりと、手間暇をかけ大事に育てました。しかしこの「ウォッチン田んぼ」もご多分に漏れず、7月以降、長雨や日照不足、さらに台風と天候不順に悩まされ、空を見上げ稲の出来を心配する日々が続きました。そして迎えた、9月30日、再び『田んぼキッズ』を招いて稲刈りを実施。子供達が一生懸命手作業で稲を刈りとる様子を、田植え同様、「サタデーウォッチン!」内で生中継しました。作業に打ち込む子供達のキラキラした表情。そこにこの企画の意義が集約され



ているのかもしれませんが。

収穫したコメの量は、実に10.72kg! 不安視された天候不順も何のその。「ウォッチン田んぼ」史上2番目となる高い収量を記録することが出来ました。精米した「だて正夢ウォッチン米」は、11月11日に角田市で開催された農協祭の会場で、県内産のササニシキやひとめぼれとの食べ比べや、塩むすびにして来場者の皆さんに振舞われました。

田んぼ作業は、時間もかかれば手もかかり、思うようにいかないことが多くあります。しかし、収穫期を迎えるたびに、田植えや稲刈りに参加してくれるキッズやそのご家族、お手伝いをいただいているJAみやぎ仙南角田地区青年部の皆さんとの交流を通じて、このささやかで限定的な農業体験が、出演者やスタッフ、そして番組にもたらしてくれるものの大きさを実感しています。

今年も自然と人の恵みに感謝!!

# 伊達政宗公と「かて飯」

2017年は伊達政宗公(1567~1636)の生誕450年でしたので、政宗公と「飯」をめぐる、仙台藩士の堀 友明が慶応2年(1866)に書いた『伊達武徳遺聞録』に掲載されているエピソードをご紹介します。

政宗公の青年時代は戦国時代末期で戦の絶えない時期でした。19歳の人取橋の合戦(天正13年・1585)の時、政宗公は本陣にいた家臣の茂庭綱元に「一日も早く天下を泰平にして、大豆飯といもの子汁と生鰯を腹いっぱい食べたい」と言ったとされています。政宗公が仙台藩主となって後の慶長18年(1613)に、茂庭綱元の仙台屋敷で祝い事があり、招かれた政宗公に出された食事がその内容でした。仙台城に戻った政宗公が食事に不満を漏らしたところ、それを聞きつけた茂庭綱元が登城し、「泰平の世になっておごりが出た」と叱責しました。政宗公は19歳の当時を思い出し、諫めてくれた綱元に詫言いとされています。

ところで日本人が日常の食事で「白米の飯」を普通に食べるようになったのは昭和30年代以降、電気炊飯器が普及してからのことです。それまでは米に何かを混ぜて量を増やす「かて飯」が普通で、大根や大根の葉、大麦などがよく使われました。このエピソードは政宗公も戦国時代は「かて飯」を食べていたという一面を伝えています。食べたいと言った「大豆飯」は「かて飯」の中では贅沢品とされ、グルメで知られた政宗公らしい癖とも言えます。



大豆飯

## 経団連の東北復興応援フェスタへ参加

JA全中、農林中央金庫、三菱地所、エコテリア協会の四社は11月1日、大手町フィナンシャルシティで「大手町マルシェ×JAまるしえ」を開催し、県内からはJA仙台、JAあさひな、JA宮城中央会が参加しました。

このイベントは、日本経済団体連合会(経団連)が東北産品の消費拡大と東北観光拡大を目指し、東北6県が持ち寄った農産物や加工品のPR、販売のほか農家やJA職員が来場者と交流できる場を設置したものです。

会場では、JA仙台的「せり」、「仙大豆の加工品」、JAあさひなの「しいたけ」、「ブルーベリーかりんとう」、JA宮城中央会からは「環境保全米ひとめぼれ」等を出品・販売し、いずれも好評でした。

イベント全体の来客者数は、主催者発表で約500名と成功裏のうちに閉幕しました。



### 赤とんぼ食堂参加者募集!!

～環境保全米と味噌～

**日時:**2018年1月30日 10:30~13:30

**会場:**エルパーク仙台5階 調理実習室

**参加費:**500円(当日集金いたします。)

**定員:**30名(参加にはお申し込みが必要です。)

天保年間創業の美里町・鎌田醤油(株)が伝統の技と地元の恵みで作り上げた味噌を味比べします。味噌を使ったアイディア料理作りも。詳しくは下記事務局までお問い合わせください。

### ご感想をお寄せください。

アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で、10名様に環境保全米2kgプレゼント!!

**Q1** 今号で、興味を持った記事はどれですか。興味をもたれた理由もお願いします。

**Q2** 環境保全米についての疑問や知りたいこと、取上げ希望のテーマなどご自由に。

■応募方法:アンケートの回答・お名前・年齢・ご住所・お電話(FAX)番号をご記入の上、FAX・メール・郵送で、下記までお送りください。

■応募締切:2018年3月20日

■抽選結果は、発送をもって代えさせていただきます。